タンチョウ博士のお話（第41回）

あなたが既婚者なら、あなたとお相手との年齢差は何歳？

ある研究者が厚生労働省の人口統計動態をもとに調べた結果によると、ヒトでは初婚相手との年齢差が０歳、つまり同じ齢の場合が最も多く21.6％、次いで夫が１歳年長13.8％、その次は妻１歳年長が10.2％だったそうです。さらに、夫２～３歳年長16.3％、妻２～３歳年長8.0％で、夫が４歳以上齢上の夫婦が23.7％を示し、そのなかには７歳以上の例が10.6％含まれています。

ごちゃごちゃ数字が並びましたが、要するにヒト（日本人）では同じ齢の夫婦が一番多く、齢の差が広がるにつれて夫婦の数も少なくなるという結果です。ただ、これも時代による変化があり、現在に近づくほど、夫婦同年齢が増える傾向があるのも確かです。

それではタンチョウはどうでしょうか。まず身近な舞鶴遊水地の番いの年齢ですが、ヒトは誰も２羽の孵化に立ち会っていないので、はっきりとは分かりません。しかし、孵化後は一定の間隔で羽が抜け代わることが多いので、それを基に生まれた年を推定出来ます。その結果、オスが2016年、メスが2017年生まれと推定されますので、オスが１歳齢上の夫婦と思われます（写真）。

年齢の確定には生まれた年につける標識が威力を発揮しますが、道央には今のところ標識鳥は１羽しかいません。そこで、夫婦とも標識付きの番いがいる道東で調べると、同じ齢の夫婦が12％、残り88％が齢の差のある夫婦で、このうち１歳違いでオス年長が27％。同じく１歳違いでメス年長が15％でした。このため、同年齢と１歳違いの番いの合計は全体の半数を超えて（54％）いて、ヒトと同じく齢の差の少ない番いが多く、差がある場合はオスが齢上のことが多いことが解ります。

もちろん、番い相手が亡くなったり、時には生き別れ（離婚）もあり、再婚の時に似た齢の相手と結ばれるとは限りません。手持ちの記録では、３歳の成鳥になったばかりのオスが、12歳年上の姉さん女房となるメスと結ばれ、その年の繁殖期にしっかり子を育てた例もあります！

もちろん、鳥がみなタンチョウのような結婚をするわけでありません。例えば、「おしどり夫婦」などと仲の良い夫婦の典型とされるオシドリは、番いで暮らすのは冬から繁殖期までです。ちょうど６月ころは、北海道ではメスがヒナを育てていますが、オスはそろそろ番いの解消にとりかかり、来年春には別のメスと番いを作ることが多いのです。

こうしたタンチョウの番い形成の様子を見ると、ヒトのそれと似ているな～と感じませんか。それがまた、ヒトがタンチョウに抱く親近感と結びついているのかもしれませんね。（文：正富宏之）

仲睦まじい舞鶴遊水地のタンチョウ夫婦。左がオスで右がメスですが、なぜ雌雄を見分けられるかお解りですか？（撮影 正富宏之）

▶**問合先**　役場企画政策係（☎76-8015）

タンチョウに関する質問を募集します！

タンチョウに関して質問がある方は、下記メールアドレスへご連絡ください。
いただいた質問には、広報ながぬま２月・６月・10月号に掲載予定の
「タンチョウ博士のお話」で正富先生に回答していただきます。

➡ご質問はこちらまで：seisakusuishinka@ad.maoi-net.jp